

## 令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	和歌山県		代表者名	岸本 周平	
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	デジタル社会推進課	連絡先電話番号	073-441-2407
担当者役職	主査	担当者氏名	坂野 悠司	連絡先E-mail	
住所	640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

#### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名(予定)	データ連携基盤に関する共同利用ビジョン策定のための県・市町村会議		
概要	デジタル庁からデータ連携基盤に関する共同利用ビジョン策定の要請があったため、ビジョン策定のための県・市町村会議を開催予定であり、その会議にて、国のデータ連携に係る政策の背景等についての講演と共同利用ビジョン案への助言をいただき、市町村のニーズに応じた地域情報化を進めたい。				
支援を求める分野	オープンデータ 計画策定支援 自治体システム標準化・共通化 スマートシティ				

### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻		
	令和6年11月7日	支援・助言	14時00分	16時00分	
				活動時間(分)	120

### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	庄司 昌彦
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	県が提示する「和歌山県データ連携基盤に係る共同利用ビジョン(骨子案)」に対し、データ連携基盤のみの共同利用のみではなく、データ連携基盤上で提供するサービスの共同利用も含め検討することで、広域でのDX推進に繋げることができるという視点をいただき、今後のビジョンの策定に非常に参考となる内容であった。
アドバイザーへの要望事項	引き続きデータ連携に係るご支援をお願いしたい。

### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	35人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	35		その他(学生など)

#### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	令和6年5月10日にデジタル庁から、データ連携基盤に関する状況把握及び共同利用ビジョンの策定についての事務連絡があり、今年度中にデータ連携基盤に関する共同利用ビジョンを策定する必要がある。現在、県内では、4市町(有田市、白浜町、すさみ町、太地町)がデータ連携基盤を整備済みであり、4市町のデータ連携基盤の類型化や今後県内で新たにデータ連携基盤を構築する際の基盤の共同利用の在り方が未整理であることが課題である。そこで、まずは県内市町村とデータ連携基盤に係る理解を深めるとともに、データ連携基盤に関する共同利用について、今後の方向性を整理する必要がある。その上で、県内の市町村のニーズに応じた地域情報化の推進を図る必要がある。
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	県内の市町村とともに、地域課題の解決や住民の利便性向上に有用となりうるデータ連携基盤の理解を深めるとともに、データ連携基盤に関する共同利用について、今後の方向性について整理し、共同利用ビジョンを策定する。さらに、それを基にした市町村のニーズに応じた地域情報化を推進し、利便性の高いサービス等の創出により、地域課題の解決や地域の魅力向上、住民の幸せに繋げる。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	今回、データ連携基盤に関する共同利用ビジョン策定のための県・市町村会議にて、県が提示する「和歌山県データ連携基盤に係る共同利用ビジョン(骨子案)」に対し、データ連携基盤のみの共同利用のみではなく、データ連携基盤上で提供するサービスの共同利用も含め検討することで、広域でのDX推進に繋げることができるとの視点をいただき、今後のビジョンの策定に非常に参考となる内容であった。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	県が提示する「和歌山県データ連携基盤に係る共同利用ビジョン(骨子案)」に対し、データ連携基盤のみの共同利用のみではなく、データ連携基盤上で提供するサービスの共同利用も含め検討する(広域での調達・運用等)ことで、広域でのDX推進に繋げることができるとの視点をいただき、今年度末までに策定するビジョンの参考にしていきたい。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない データ連携基盤の共同利用に係る理解を深めることができた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)		
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある 今年度中に残り2回開催する県・市町村会議にて、データ連携基盤に関する共同利用ビジョンを策定予定。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	市町村のニーズに応じた地域情報化を推進し、利便性の高いサービス等の創出により、地域課題の解決や地域の魅力向上、住民の幸せに繋げる。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可  掲載可  掲載不可

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/)

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

241107第2回市町村DX担当者会議(データ連携…)

Zoom

**和歌山県データ連携基盤に係る共同利用ビジョン(骨子案)**

1 行政を取り巻く環境の変化

- 少子高齢化が進む中、限られた人や財源で、複雑かつ相互に絡み合う地域課題をいかにして解決していくのが検討するフェーズに差し掛かっている。
- これまでのように分野別に解決を図るのではなく、行政組織や企業等の垣根を越えて分野横断的にデータを連携させることによって、地域の様々な課題を複合的かつ効率的に解決し、また、新たな価値・サービスを創出することで地域の魅力を高めていく必要がある。

2 データ連携の効果

- データ管理の高度化
  - データの最新性の担保、データの重複や矛盾を防ぐ(正しさと整合性の担保)、情報漏洩リスクの軽減等
- データ活用の高付加価値化
  - 複数システムの保有データを組み合わせて価値を高める(高度な意思決定、きめ細かいサービス、高効率化等)

①サービスの連携

- 住民への個別サービスを連携させることで、例えば、住民へのワンストップ・サービスへの実現等が期待。

②地域間の連携

- 自らの地域のデータと連携・分析することで、例えば、自分たちのまちの特長を理解し、特長ある地域ビジネスの創出等が期待。また、居住地と勤務地が異なる日々を行き来している場合でも、広域でのサービスを受容可能。

③分野横断の連携

- 分野の垣根を越えてデータの活用が可能となることで、例えば、行政のハザードマップや民間の高齢者通行実態、衛星画像、気象データ等の組み合わせで防災対策の高度化を図ることが可能。

(出典：スマートシティワイルドスアーキテクチャ 導入ガイドブック)

Zoom meeting interface showing a presentation slide on the left and a video feed of a participant on the right. The slide content is summarized in the adjacent block.